



完成をめざして最終スパート、公共下水道事業(幹線工事)



空カンも機械的に処理、リサイクルセンター

●着々と水洗化へ——公共下水道事業

昭和49年から工事に着工、10年目を迎えた公共下水道事業は、昭和60年に市内全域完了をめざして工事が行なわれています。現在事業認可区域666.4haのうち約90%に当たる593.4haが供用を開始しており、すでに1万5708ヵ所が排水設備工事を終えて快適な生活をおくっています。

●都と一元化しながら“豊かな水”の確保

かつては豊富な地下水に恵まれていた本市も、人口の増加や自然環境保全の立場から新たな水源の確保が必要になり、そのため50年2月より都への一元化が実現し、市は受託により事業をすすめており、さらに浄水場の整備に力を入れてきました。現在普及は100%に達しています。昭和57年度に市民に給水した水の量は597万6210m³で、今後トイレの水洗化がすすむと、さらに使用量の増加が予想されます。

今後も都の諸施策を全面的にバックアップしながら、市民に安定した飲み水を届けていきます。

5万人を超える市民が安心して快適な生活をおくる——そのために10年先を見通した生活環境づくりが必要です。懸案の公共下水道事業も10年目を迎え約95%の工事が終了、完了へあと一歩。市民のリサイクル、美化活動も徐々に定着してきています。

クリーン福生、セーフティ福生をめざして

生活環境の整備



市民参加で多摩川の清掃デー

●ゴミの減量化にも力を入れながら

人口の増加、生活の都市化で常に悩まされてきたのが増えつづけるゴミとし尿の処理。年間出るゴミは可燃物約1万1800t、不燃物約2600t、粗大ゴミ約400tに達しています。

ゴミは分別収集し、燃えるゴミは西多摩衛生組合で処理していますが、近年プラスチック製品、カン、ビン製品等の不燃物が急増しているため、54年には不燃物の中から再利用できる有価物を回収するリサイクルセンターを設置しました。また収集活動は可燃ゴミは日曜、祝日を除く毎日、不燃ゴミは市内を3ブロックに分けて週1回行なっています。

ゴミは市民の協力で減量化がはかれるためリサイクル活動を呼びかけ、地域、グループによる分別、再利用が効果をあげています。

し尿は、現在業者委託により1世帯月1回の収集業務を行ない、年間約9700kℓを収集処理していますが、今後は市内全域が水洗化するため、クリーン福生が実現化する予定です。

●公害のないまちづくりへ

国道16号線、主要都道を中心にしたクルマ騒音、振動は市内で発生する公害件数の約半分を占め、他に横田基地の飛行機の音が気になるという人も市民の約半数に達しています。

市民課公害係では、市内道路の騒音、振動測定、多摩川の水質測定等を定期的に行ない、関係方面へ改善を促すと共に、企業等の公害防止施設のチェック、河川へのゴミ等の不法投棄を厳しく監視するため公害パトロールを行なっています。



交通量の多い道路での騒音測定

●市内の美化、緑化に市民も協力して

昭和57年からはじめた多摩川河川美化運動には毎年5000人の市民が参加し、トラック1台分のゴミを収集し、年々協力の輪が広がっています。また各町会単位に道路、排水溝の掃除、空カン拾い等も行なわれるようになり、地域美化に対する市民の関心も高まっています。

一方、市内の自然保護のために、東京都から委託された“みどりの監視員”が14名おり、各種の情報を提供してもらっています。